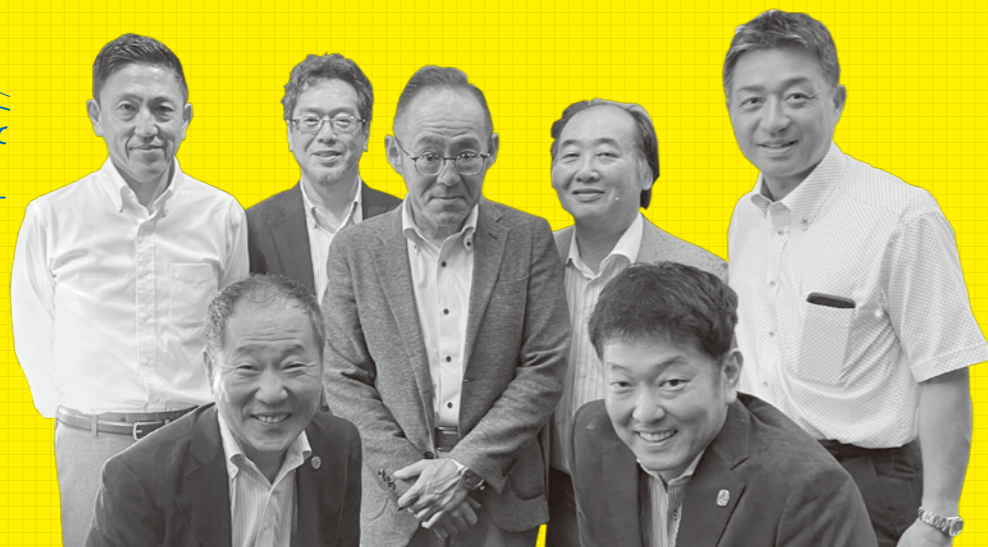


各支部の垣根を越えて
じっくり語り合いました！

支部長
座談会

Part 1



魅力ある、 持続可能な支部運営とは

大阪府印刷工業組合（以下、大印工組）は府内13の支部で構成されており、その支部によって支部会費、運営組織、実施事業はさまざまで、支部の活性度は「支部長の本気度」に比例していると言っても過言ではありません。しかしコロナ禍によって、入念に企画したイベントのほとんどを中止せざるを得ないという誰もが経験したことのない辛く・苦しい3年間を余儀なくされてきました。2023年ようやくコロナが5類になり、まさにいま、支部長の本気度が試されようとしています。

そこで広報誌「PRI・O」では、各支部の特徴や課題に加えて、支部・業界の未来について語りあう「支部長座談会」を企画し、2回に分けて掲載してまいります。6名の支部長が出席した第1回のテーマは「魅力ある、持続可能な支部運営とは」です。山本副理事長をファシリテーターに、ひざ詰めで真剣に語り合った模様をお伝えいたします。



コミュニケーションの場づくりが 支部活性の源泉に

山本： 本日はご多忙のなかで参集いただき、ありがとうございます。早速ですが組織共済・支部サポート委員会の委員長でもある、南親支部の若林支部長から支部長になった経緯や率直な感想、そして支部に対する想いについて語っていただければと思います。

若林： 南親支部は34社で構成されていて、「次はお前やれ」みたいな感じで支部長になりました。大先輩からのお言葉なので、支部長の役割を理解できていませんでしたが、取り敢えず素直にお受けさせていただきました。支部長になると時間がとられることは分かっていたので、まずは私の業務（特に営業）を部下に引き継ぐ必要がありました。最初は心配でしたが、いまでは部下も責任感が強くなり、想定以上に成長してくれて良かったと思っています。

南親支部は近年、若手が多く加入したこともあり年齢のバランスが非常に良くなってきたと思っています。どこの支部長さんもそうだと思いますが、コロナ禍で何もかもが制限された3年間は非常に辛かった。



南親支部長
若林大我



いまはコロナが明けた反動もありますが、支部内でコミュニケーションの場づくりに専念しています。明日も「グルメ会」を開催しますが、そういう場やきっかけを提供するのが支部の役割のひとつだと思っています。その甲斐あってか徐々にではありますが、支部内だけでなく他支部の方とも仕事のやり取りが動きはじめていることを何より嬉しく思っています。

よく組合に入るメリットとは？的な話題になりますが、やはり仕事が増えることが一番じゃないかなと思うんです。そこに至るにはやはり信頼関係が必要になってきますよね。支部や本部の事業に率先して参加することで、人間関係を築いていかないと仕事の相談がくることはありませんので、若手を中心にもっと組合事業に前乗りになって参加するようはっぱをかけています。

山本： 私も若林支部長と同じ南親支部ですので、同感です。コミュニケーションの場づくりに加えて若手が入ることで支部内が活性化してきているように感じます。これまで支部の下地を作ってこられた歴代支部長や役員があつてのことだと、先人の方々へ改めて感謝いたします。では次は東支部の池下支部長にお願いしたいと思います。

池下： 私は支部長になって6年目になります。東支部は35社の組合員で構成されていて、若林支部長の南親支部と規模的に似

支部組織・運営手法の確立で支部長負担を軽減

山本： 支部長の役割って、ほんと大変だと思います。支部の事務局を大印工組が請け負うことも三役会のなかで出ているくらいです。そんななか、私が知るなかで組織運営がしっかりされている福島支部の中川支部長にバトンをお渡ししたいと思います。

中川： 福島支部は現状37社で構成されています。支部の歴史は結構古くて、もうすぐ創設80周年を迎えようとしています。歴史から培った独自の支部組織や運営手法が確立されていて、私はそれを受け継いだうえで、時代にマッチした支部にどう変えていくかというのがミッションになっています。

ているのだと思います。私の性格上、せっかく支部長になったのだからと、事業予算もあまりないなかで、初年度は張り切って支部内のセミナーなど学びの場を多く企画・実施しましたが、参加人数が伸びないうえに支部の活性化に繋がりませんでした。ですので翌年度からは割り切って学びの場は本部である大印工組へ任せて、支部では肩肘張らず、コミュニケーションの機会を増やしていくことに注力したところ、支部内に一体感が出てきました。近年では支部組合員数が拡大傾向にあり嬉しく思っています。

東支部の特徴のひとつに女性経営者が4名もいることがあげられます。女性経営者の目線で支部運営や事業を遂行することで、支部内に活気も出てきたように感じています。

いまの課題としては、支部長を引き継げる人材が少ないことです。私もそうですが、東支部の皆さんは中小零細企業がほとんどで、営業から現場の仕事まで経営者が担っているのが現実で、誰も支部長をやりたいがらないんです。そこをどうしていくのか、頭が痛いところです。

東支部長
池下徳史



副支部長の頃から支部内にメスを入れてきましたが、いざ支部長になった2020年に新型コロナウイルスが蔓延するとは思ってもありませんでした。今になって思うのですが、私が支部長の時にコロナ禍になってよかったかなと思っています。なぜなら、これまで支部行事に参加されていない企業に、コロナ禍を

QRコードから各支部ページへ
アクセスしてみてください！



副理事長
山本素之

福島支部長
中川敏之



理由にマスクを配りに訪問することができました。「わざわざ支部長さんが来てくださった」という言葉をきっかけに交流を図っていくことができましたので。

福島支部内には委員会組織ができており、他の支部と比較して支部長の負担はそれほど多くないように思います。各委員会が中心となって支部事業の企画・運営を一生懸命考えて担ってくれますので、ちゃぶ台をひっくり返すようなことはほとんどありません。

支部の課題としては、若手が少ないことです。私の息子はまだ30歳代ですが、40～50歳代の方が青年部や親会の役員を兼務しているのが現状です。ある意味、平和な支部でいいんですが、もっと若手が率先して「俺が変えてやる」みたいな気概を持っていただきたいのですが、若手は仕事が優先で何かあったらすぐ逃げてしまうのが実際のところです。来年の次期支部長は既に決まっていますが、5年後のその次がまだ決まっていない。私の支部長期間はあと半年強あるので、人事をしっかりさせて支部長を引き継ぎたいと思っています。

山本: 福島支部はウェブサイトや広報誌まで独自で作られていて、支部運営に力を注いでいることが火を見るより明らかです。支部運営を委員会が担うなど、他の支部も見習う点が多くあるように感じました。では次、北支部の大河内支部長をお願いします。

大河内: 北支部は33社で構成されていて規模は似ていますが、支部組合員の減少と高齢化が課題になっています。若林支部長の南親支部のようにバランスがとれていないので、活気が少ないように感じています。もっと若手の方に参加してほしいのですが、

50～60歳代の方が中心の北支部なので自分の父親のような、ある意味「おやじの会」に行きたがらない。北支部は昨年50周年を迎え、コロナ禍でしたが特別感を出しているとうユニバーサル・スタジオ・ジャパンで盛大に式典を開催することができました。50年という長き伝統のある北支部を今後も継続するため、支部組合員の新規獲得を念頭に入れながら若手が来なくなるイベント開催に尽力していきたいと思っています。

そんななかコロナ禍でずっと開催を見送っていたビアパーティーを今年は8月に開催します。以前は300名規模で開催していましたが、今年は200名を目標にしています。組合員企業の従業員さんにも参加いただけるイベントで、盛り上げていきたいと思っています。

どこの支部でもここ数年、支部組合員企業の減少に歯止めがかからないのが現状だと思いますが、北支部でも顕著に脱会する企業が増加傾向にあります。支部組合員企業数がこれ以上減少してしまうと、支部事業が縮小せざるを得ない。最悪、単独で行えなくなることも考えられますので、新規組合員の獲得に励みます。



北支部長
大河内秀起



小澤: 私は昨年から、東大阪支部の支部長をさせていただいていますので、支部長2年目になります。東大阪支部は数年前に支部内で問題があり1年間で17社が脱退してしまい、現在は28社になっています。この問題以降、支部内のコミュニケーションが円滑になっていないように感じています。私の代で希薄になったコミュニケーションを会社規模関係なく、東大阪支部として一致団結していくための基礎固めをしていきたいと思っています。

東大阪支部は歴史も古く、総会資料一覧を見る限り90年近くになると思います。きちんとこの歴史を継承しながら、支部長に課せられた責任を全うしていきたいと思っています。小さなことからコツコツとではありませんが、支部行事に参加されない企業やメールに返答のない企業への訪問を実施しながら、少しでも支部運営に前のめりになってくださる企業を増やしていています。東大阪・八尾・平野といった大阪のなかでも製造業が多い地域になりますので、新規組合員の勧誘にも力を入れていきたいと思っています。

東大阪支部長
コザフ
小澤和宏



意嶋: 私は堺支部の副支部長を拝命していますが、今日は佐潟支部長の代理で座談会に出席させていただいています。堺支部の前身は堺印刷協同組合で、大印工組ができた時に参加した経緯があります。堺印刷協同組合は20社足らずでしたが共済事業を中心に、出資した資本を基に低金利で組合内の企業に貸し付けを行ったりしていました。私の叔父が大印工組と契約をした経緯があり、もうそんなに時間が経過したのかと、まざまざとあの頃の記憶が蘇ります。

大印工組の組織に加わったことで支部のメリットが明確に打ち出せなくなり、一時は解散も検討した時期もありましたが、現在は12社と13支部のなかで最小規模の支部でありながらも、ありがたいことに支部事業には皆さん進んで参加してください。



堺支部長(代理)
意嶋剛



先日堺にある南海グリの本店を貸し切った例会を行いました。普段行けない特別感を出そうと場所にもこだわって開催しました。支部の課題としてはやはり新規入会者の獲得です。今日は皆さんがどうやって支部組合員の新規勧誘を行っているのかお伺いしたくて参加させていただいています。

山本: 各支部長のお話を聞かせていただき、それぞれの支部の特徴がよくわかりました。そのなかで支部の課題として結構皆さんあげられていました「次期支部長を誰に任せるのか」にスポットを当てて支部長の負担軽減や役割の分散などについて大河内支部長にお伺いします。

大河内: 北支部の次期支部長は既に決まっています、その先までも決まっています。しかしここ数年でその2社が退会する事態になり、次期支部長は不在です。私を含め、歴代支部長や役員がサポートするからとお願いできる会社を探しているところです。数名目星を付けているので、年内には確定させて引継ぎしていきたいと考えています。

山本: 私は支部長経験がありませんが、外から見て「支部長って時間とられるよ

組合員に寄り添うサービスが、組合の付加価値に

山本: 縁もたけなわですが、座談会が始まって既に1時間半が経過しています。ここで、本日のテーマにあります「魅力ある、持続可能な支部運営」について、大印工組本部に対する支部からの要望などお伺いしたいと思います。中川支部長、お願いいたします。

中川: 全日本印刷工業組合連合会(以下、全印工連)が組合員向けサービスとして提供しようとしている「DX-PLAT」が我々中小の印刷事業社にとって有益なのか、さっぱり分かりません。

な〜!」って感じる事が多々あります。先ほども少し話しましたが支部の事務局を大印工組が請け負うという件について、小澤支部長はどのように思われますか。

小澤: 私は東大阪支部に加入して20年程度で、実際に支部事業のお手伝いをするようになって12年位になります。支部長になって特にその役割が変わったわけでもなく、小間使いのような雑用係というのが正解だと感じています。ただ、やはり同じ支部同士なので互いに楽しみながら結束を強くしていきたい気持ちは人一倍持っています。中川支部長の福島支部のように支部内に委員会を作ったり権限の委譲をしていくことが重要なのはよく分かりますが、実際に誰が担ってくれるのかという壁があり、大印工組が事務局を担うという話以前の問題だと思います。

中川: 誰が担ってくれるのかというのは、小澤支部長が思っているだけではないのでしょうか。急に丸投げするには無理がありますが、小澤支部長の任期のなかでしっかりとデータベースを作ってあげることで、次期支部長への負担が軽減されて支部運営もスムーズになると思います。委員会組織を作った権限を委譲しながらデータベースをしか

DX-PLATに投げるような仕事があるのかどうか、まず分からない。福島支部のなかで50名以上の企業は数社ありますが、ほとんどが10名までの超零細企業です。組合間の受発注システムがDX-PLATと聞いていますが、何か困ったときは支部内で聞けばほとんどが解決してしまいます。本部は全国事業の普及と啓発を行うのが役割だと分かっています。全印工連独自の資格認定は多々ありますが、一般への認知度が低すぎる。JPPSなんかもプライバシーマークに及ぶどころか誰も知

らないし、CSR認定も一般の認知度が低すぎて顧客に提案しても付加価値になりにくいのが現状です。素晴らしい資格を作っているのは理解していますが、もっと一般への認知度向上を図っていただければ、積極的に支部内に資格取得を促していこうと思います。

り作れば、自然と支部内のコミュニケーションも取れてくるのではないのでしょうか。

山本: 本日は来られていませんが、東和支部は事務局を外部に委託しているとお伺います。また北支部は経理業務だけを外部に委託していると聞いていますが、池下支部長の東支部は会計や総務も支部長がされているのでしょうか。

池下: 東支部には総務と会計の担当者が別々でいます。私が支部長を受けるときに作りました。総務と会計は支部予算を使い、支部組合員企業のなかで総務と会計を担っていただき、私は支部長としての役割のみをさせてもらっています。

支部内の事務作業(総務や会計)は外部に委託するものでないと私は思っています。総務や会計を担当してもらうことで、支部の内情や歴史、存在価値が見えてくるものだと私は思っていますので、それを外部に委託しようとはまったく思いません。



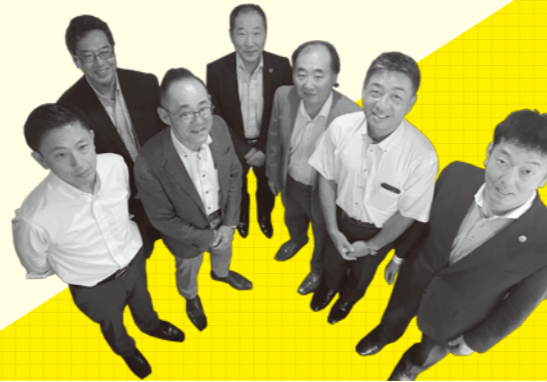
山本: 貴重なご意見、ありがとうございます。全印工連の役員の方にしっかりと伝えさせていただきたいと思っています。最後に大印工組の未来についてお伺いします。こんな委員会があればいいとか、忌憚のないご意見をいただければと思います。

若林: 本部の委員会のなかで、社内できれない人材育成みたいなものがあれば良いなと思います。例えば印刷現場の人たちだけが集まるような場を提供いただいて、品質や技術を高めるための話し合いをするような、決して社内だけではできない委員会があったり、印刷現場だけでなく、紙工や後加工の会でも良いと思うんです。また単純に女性だけの委員会があってもいいんじゃないでしょうか。究極は従業員だけの委員会で経営者の愚痴を言うような、そんな会でもいい。素直に私たちがそれを聞いて議論するような本音の会もあれば

もっとみんないい会社になっていけるように思います。

ほかには些細なお困りごとを解決できるようなメーリングリストやチャットなんかがあれば便利だなと思います。当社のエレベーターが老朽化していて、それを誰に相談していいのかわからない。我々は印刷業を生業にしていますが、企業を持続させていくために必要な困りごとたくさんあります。そんなお困りごとに対して誰かが専門家を紹介してくれたり、解決に結びつくヒントを与えてくれるような情報共有サービスがあればいいなと思います。

まだまだ語り足りないけど
今回はここまで!



〈支部長座談会 Part1を終えて〉

山本: 今回は、「魅力ある、持続可能な支部運営とは」をテーマに6支部長にお話を伺いました。

皆さん共通した課題として、今後の若手の育成や新規組合員の発掘をあげていたことが印象的でした。ヒントとして、福島支部では新たに大印工組に興味を持っていた企業様に独自の会報誌「ピーマン5」と「PRI・O」のバックナンバーを数冊持参されているそうです。支部の活性化としては、東支部では池下支部長が割り切って学び

の場は本部である大印工組へ任せて、支部では肩肘張らず、コミュニケーションの機会を増やしていくことに注力したところ、支部内に一体感が生まれたとのこと。他の支部長から支部組合員企業数が減少というキーワードが飛び交う座談会になりましたが、各支部長自身はポジティブに打開策を考えておられることに未来は明るいと思いました。若手がどうすれば組合事業に参加したくなるのか? 人材育成(社員の会)や、女性経営者のコミュニティーなど、次年度

になるかもしれませんが積極的に動いていきます。

今回改めて思ったことは、やはり情報の格差をなくすでしょうか。100人企業と10人以下の企業との求めている情報について考慮が必要かと思えます。支部長頼みにならぬように各委員会のメンバーとも協力して、全組合員が「Happy Industry」になれるようにいろんな角度からの丁寧な説明を心がけていきます。

近畿地区印刷協議会 令和5年度総会を 神戸市で開催



近畿地区印刷協議会 武部会長 全印工連 滝澤会長

近畿地区印刷協議会(武部健也会長)は、6月9日(金)11時から理事会、13時から全体会議・分科会・理事長会/分科会報告を「神戸ポートピアホテル」においてリアル開催し、近畿7府県の印刷工業組合役員ら65名が業界が抱える課題や問題について協議・情報交換を行った。

全体会議では、「神戸ポートピアホテル」にて、大印工組・平塚事務局長の司会で開会し、近畿地区印刷協議会会長・兵庫工組理事長の武部氏から挨拶が述べられた。次いで慣例により開催工組である武部理事長を議長に選出し、第1号

議案の令和4年度事業報告書および決算報告書ならびに剰余金処分案承認の件、第2号議案の令和5年度事業計画案および収支予算案ならびに経費の賦課徴収方法承認の件、第3号議案の令和6年度総会の開催工組承認の件について事務局から説明し、議長より賛否について確認したところ、出席者全員異議なく承認された。なお、令和6年度総会は滋賀工組で決定した。

議事終了後、全印工連・滝澤会長から挨拶が行われた。引き続き全印工連の「事業推進など」について池尻専務理事より、「ビジネスを活かすMUD」については石坪(近畿地区)教育研修委員会委員長より、「2023全日本印刷文化典 広島大会PR」については宇都宮実行委員長から説明を行った。

14時50分からは各分科会の会場に



移動し、①経営革新マーケティング ②環境労務 ③組織共済 ④教育研修 ⑤官公需対策の5分科会に分かれて討議が行われた。16時35分から再び全体会議の会場へ戻り、午前に行われた理事長会と5分科会の報告が行われた。

このあと、懇親会の会場に移動し、兵庫工組・柳副理事長の司会にて懇親会をスタート。兵庫工組・武部理事長より乾杯の発声が行われ、引き続いて情報交換を行った。18時50分、次回開催工組の滋賀工組・中村理事長が中締め挨拶を行い、全日程を終了し散会となった。

大阪印刷関連団体協議会 令和5年度 通常総会と 受章者祝賀会・懇親会を開催

大阪印刷関連団体協議会(浦久保康裕会長)は6月22日(木)午後5時から中央区のホテル日航大阪で「令和5年度 通常総会」と「受章者祝賀会・懇親会」を開催し33名が参加した。

【通常総会】

最初に浦久保会長が開会の挨拶のあと、議長となり議案審議に移った。事務局が大阪印刷関連団体協議会の第1号議案(令和4年度事業報告および決算報告ならびに剰余金処分案承認の件)、同じく第2号議案(令和5年度事業計画案および収支予算案ならびに経費の賦課徴収方法承認の件)、同じく第3号議案(役員変更承認の件)、高野山印刷産業人納骨塔奉進会の第4号議案(令和4年度決算報告ならびに剰余金処分案承認の件)、同じく第5号議案(令和5年度収支予算案承認の件)、同じく第6号議案(令和5年度高

野山慰霊祭(建立50周年記念)開催の件)、同じく第7号議案(役員変更承認の件)を説明し、出席者全員異議なく承認された。【受章者祝賀会・懇親会】

午後6時からは受章者祝賀会・懇親会に移り、浦久保会長の就任挨拶に続いて、令和4年度 秋の旭日双光章(2名)ならびに令和5年憲法記念日知事表彰(大阪府産業功労賞4名)の受章者として、旭日双光章は、實守敏訓氏(實守紙業(株)代表取締役・大阪洋紙同業会)と西川雅夫氏(セキセイ(株)代表取締役会長・大阪府印刷工業組合)。大阪府産業功労賞は寺川務氏((有)日東製本所代表取締役・大阪府製本工業組合 副理事長)、北角尚弘氏(北角紙器(株)代表取締役社長・大阪府紙器段ボール箱工業組合 専務理事)、西澤



吉樹氏(三星インキ(株)代表取締役社長・元印刷インキワニス工業会 副理事長)、船奥敬氏(三船工業(株)代表取締役・大阪金属印刷工業協同組合 理事長)の合わせて6氏が紹介され、浦久保会長から記念品を添えて顕彰状が贈られた。

引き続き、来賓として大阪府商工労働部 中小企業支援室ものづくり支援課の柏村課長と大阪府中小企業団体中央会の谷山事務局長が祝辞を述べられた。続いて、第24回 断裁機講習会(技能コンクール)で優秀な成績を収められた方に大阪府知事表彰(大屋貴浩氏・丸楽紙業(株)、大阪市長表彰(豊嶋光男氏・(株)美生社)の賞状が贈られた。

その後、富塚副会長(大阪府製本工業組合 理事長)が乾杯の音頭をとって開宴。和やかな雰囲気のもとで旭日双光章ならびに大阪府産業功労賞を受章された6氏を祝い懇親を深めたあと、午後8時に岡副会長(大阪府グラフィックサービス協同組合 理事長)が中締めの挨拶を行ってお開きとなった。

heart
抗菌・抗ウイルスの
名刺と封筒を
ご用意しています

対面での名刺交換、資料の手渡しや
郵送でも安心してお使いいただけます

詳しくは当社ホームページをご覧ください
印刷用のAg+マークもご用意しております

Ag+ 銀イオンのチカラで
細菌やウイルスの増殖を抑えます

DTK 印刷関連機械を売るなら「DAITSU」へ!!

遊休機械を現金にて高価買取致します!
買取が出来ない機械につきましても、ご希望にあわせて
処分も可能ですのでお気軽にご相談下さい。

《買取査定 対象機械》
オフセット印刷機 / シール印刷機 / フォーム印刷機
CTP / 断裁機 / 製本機 / トムソン機 / 製袋機 など

大通機械販売株式会社 〒577-0012
大阪府東大阪市長田東 2-1-33
TEL:06-6747-3561 FAX:06-6747-3591 MAIL:e-mail@daitsum.co.jp
www.daitsum.co.jp